

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： Ghost Engineering:身体知覚の変容を通じた認知拡張基盤の構築

2. 個人研究者名

鳴海 拓志（東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授）

3. 事後評価結果

本研究は、バーチャルリアリティ技術を活用した身体拡張体験を通じて、個人が自らの心的状態や認知を適切に変化させることを支援する技術基盤の構築を目的とした。バーチャルリアリティならではの変身・分身という身体拡張体験を活用したコミュニケーション環境において、ポジティブな心理効果や、柔軟な思考を妨げる認知バイアス等の発生を制御する技術を構築し、人同士の相互理解の深化促進が可能な情報環境の構築を図った。

従来のバーチャルリアリティ研究は、現実の再現やシミュレーションに注目していたが、本研究では、身体変容によって我々の自己認識および行動がどのように影響を受けるのかに踏み込んで膨大な知見を得ており、まさに新分野を創出したと言える。また、教育やトレーニングなどソーシャルデザインの実現まで実装できた点、バーチャル身体デザインと人の認知の関係が明らかになった点が大変評価できる。モデルの構築により研究の理解が深まるとともに、将来的な課題も見え、大きなビジョンが常に見えている点が高く評価できる。

今後は、現実世界を中心とした認知科学的な知見と仮想世界での知見との整合性についてもっと探究してほしい。そして、成果を活用した象徴的なアプリやサービスの登場を期待したい。